

2026年10月21日(水)

老球の細道948号

あれから1年

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「月日は百代の過客にして行きかう年もまたこれ旅人なり」。松尾芭蕉の書いた有名な『奥の細道』の出だしである。人生を旅人に例えながら、人生の無常を書いている。人生は無常であるが、たった1回の人生である。生かされているうちはしつこく、楽しく、世のため、人のために生き続けたいと願っている。

日本で初の女性首相になった高市内閣が成立して今日でちょうど1年が経過したという。昨年の定期健康診断で「食道がん！」と主治医から宣告されてから今日で私も1年になる。

「私の人生記念日」に10月21日を新たに「食道がんの日」と登録した。また一つ悪い記念日が増えてしまったが、二度と同じことを繰り返さないためにはしかたがない。

1年前の10月21日のノート記録を読み返してみた。

「やはりなってしまった。胃カメラ検査でいつになく長く時間がかかったので不安がよぎった。ポリープがあり、細胞診断をするために少し切り取ったらしい。その後医務室で結果を聞いたら早期の食道がんではないかと言われた。春頃から食べ物が喉に少しつかえることがあったが、それが前兆だったのだろうか。たんなる老化現象の嚥下困難だと思っていたが。早期がんは内視鏡で切り取れば、ほぼ100%完治するという(その後の検査でステージ2と診断され、手術と抗がん剤治療となった)。負けてはいられない。いずれガンにはかかるだろうとうすうすは感じていた。

今までわがまま勝手に生きて来た報いであろう。神様に試される時がやってきた。なってしまったことはしかたがない。これからのことだけを考えて一日一日を大切に生きて行こう。今後の目標は、周囲に心配をかけない。日々やるべきことを精一杯やり切る」

その後の経過は老球の細道906号からの『青天の霹靂』で書き記しておいた。このような内容を通信として書くかどうか迷ったが、国民2人に1人がガンに罹患する時代、私の周囲にも多くの知人が罹患していたので、少しでも情報に役立てればと思い書いた。

あれから1年。現在も抗がん剤治療中であるが、少しずつ回復の方向に向かって突き進んでいると実感する。1月(手術)。2月(退院)。3月(ランニング回復)。4月(声が普通に出る。咳が止まる)。5月(腸瘻の管が取れる)。6月(コーヒーストローなしで飲む。食事が普通にとれる。バスケットクリニック実施)。7月(ノンアルコールビールストローなしで飲む)。8月(喉の治療終了。ラーメン1人前OK)。9月(腸瘻の孔出血停止。風呂入浴OK)。10月(筋力アップ。体重1キロ増加)。残すは飲み込みの違和感と再発、転移。

ガンにかかった時にまず第一に頭をよぎったのは、治ったら今までのようにコートに立ってバスケットの指導ができるのだろうかということだった。尊敬する元長崎鶴鳴女子高校監督の山崎純男先生は10年前胃の全摘手術を克服し、中、高校生の指導と審判を84歳になった今でも続けているという。スーパー・ガンサバイバーは周囲にたくさんいる。